

刊夕 日五廿月十



定価一冊一円二ヶ月五拾銭 郵税五拾銭
 廣告料五拾二字一頁一日五拾銭
 日曜祭日の翌日休刊
 発行所 常磐毎日新聞社
 印刷所 常磐毎日新聞社

萬葉集に現はれた母性愛

中泉 哲俊

次に作者名の判明せるものに例を求めると、僅に大伴坂上郎女を擧げ得るに過ぎぬ。

大伴旅人の同腹の妹であり、家持の叔母である彼女の女は、額田女王と相並んで萬葉女流歌人中の雙璧と稱せられる麗はしい容姿と豊かな才藻とたぎつ情燈とに恵まれた郎女は、當時の貴公子を惱殺し、王朝の和泉式部式の奔放な情生活を送つた女性らしい。随つてその詠八十首の大部分は相聞歌であつて、母性の愛情を詠じたものは次の二首が

ノート
 曲亭馬琴の里見八犬傳は初

篇を文化十一年に刊行天保十二年漸く終篇を脱稿前後二十八年の歲月を費した

あるだけである。
 (イ)久方の天の露霜置きにけり
 家なる人も待ち戀ひぬらむ (卷四)
 (ロ)玉主に玉はさづけてかつがつも

枕とわれはいざふたり寝む (卷四)

(イ)の(家なる人)が何人を指すたについては問題もあるが、普通には、大伴宿奈磨との間に儲けた二人の娘坂上大嬢と田村大嬢を指すものとされてゐる。天平二年の頃兄旅人に随つて太宰府にあつた女郎が、都に残して来た幼い娘の上を、遙々筑紫から思ひ遣つて詠じたものである。愛する娘へのひたむきな思慕の情の充ち溢れた歌で父性の愛情を色濃く盛つた、山上憶良の「思子等歌(卷五)などに劣らぬ率直な人情を表現してゐると思ふ。

(ロ)の「玉主」も曖昧な語であるが、二人の娘の婿大伴家持と大伴駿河磨を指し「玉」は娘達を指すものと言はれる。長い間手鹽にかけて養ひ育てた娘を嫁がせた後の、母親の心安さと心寂しさが、しみじみと味はれる歌であること、彼は、彼の女の若い頃の情熱も才氣も全く影をひそめてたゞ子の平凡な母としてのやさしい美はしい愛情が惻々として私達を打つ。枕と二人取残されて、冷たい床につかねばならぬ老母のわびしい姿と、二人の娘に對する強い愛着の心が想はれて、これがあの戀愛遊戯

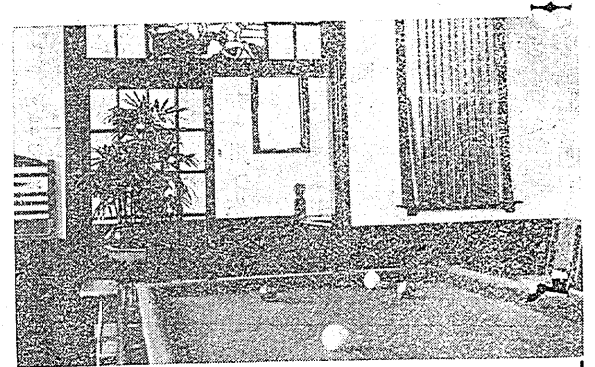
者ともみられる坂上郎女の最後に辿り着いた心境の委かと思ふと、何かしらしみじみとした、敬虔な情感が胸に滲むのを覺える愛情の葛藤と人間的苦惱との數々をなめ盡くして、茲に女性本来の自覺と母性本然の内省とに到達した彼の女を知る時愛娘小式部内侍の天死を心から慟哭して紅涙を打たれると同じやうに、私はこよなき喜びを感せずには居られぬ。

美味! 芳醇!
 宗正らひた
 山崎合名會社
 電話一〇番

看護婦急派
 求めに應じます
 平町南町
 平看護婦會
 電話三七〇

耳鼻咽喉科専門
 平田町(電話六九二番)
 山内醫院
 醫學士山内亨吉

病室完備 自炊便有
 山内醫院
 醫學士山内亨吉



清涼の小瀧へ!!
 ◇宿泊料 1.50 2.00 2.50 (御滞在は左記料金にて中食料をふくませます)
 ◇日歸浴席料 .20
 ◇自炊料 .50-.80
 ◇料理一定食 .80 1.00 1.50
 ◇湯 効 神痛、リウマチ、胃腸、痔疾、婦人病、逆上、中風、肥胖病 (内務省東京衛生試験所検定済)
 ◇諸 設 備 撞球臺、高級ラデオ、大廣間讀書室、近代式浴場と洗面所、水洗式便所、小動物園、タクシー部、御子様運動器具
 ◇名物 川魚料理(うなぎ、鯉、蜂蜜羊かん)
 ●女中數名入用●
 常磐線湯本驛 小瀧鑛泉
 御旅館 瀧の湯
 御自炊
 電話 (小名瀧) 103番

ウオームコート
 うらゝコート
 純毛

- ◇獨特の編方
- ◇染色の堅牢
- ◇伸縮の自由
- ◇柔かい地風
- ◇保温満點
- ◇スマートな容姿
- ◇輕快なる着心地

以上の特長を有する優美な新製品
 ¥8.00 ¥7.00 霜降 ¥7.50

ツルヤ 電一四〇

平電氣鑄鋼所
 電話二六番
 一、電氣グレイン 運轉手 壹名
 一、木型職見習 數名
 履歷書持參—委細面談

名馬も

老ひては

値無しの哀れさ

産馬組合の廢馬入札

石城産馬畜産組合は既報の如く廢馬と決定した英國産ハクニー系統洋種「ポップ」ウツド・クォーリター「號」及洋雜種「翁島號」の競買入札を廿四日行つたが翁島號は六十八圓で湯本町の馬喰高田さんに落札しポップ號は最高五十圓、最低四十五圓

五十圓の安値であるため同組合はかつて大枚一萬圓を投じて購入した名馬である丈に廢馬となつたとは云ひ相當の豫想價を持つてゐるが入札價格との開き餘りにも大きく結局落札不調に終つた、次期開催は現在未定である

家庭經濟の

行詰を語る

卒業兒童の方向

學校よりも實社會へ

平職業紹介所調査に依る今年三月の郡内卒業兒童尋六及び高等科を含むは聯絡五十五校で一萬一千八百二十二人あるがその内上級學校進學者は男四千二百九十六名女三千九百廿二名、家業從業者は男一千六十八人、女一千二百廿八名、就職者は男七百七十六人、女五百七十七人の合計一千二百八十三名、未就職者数は男六十九名、女六十六名、計百三十五名の數字を示して居る、これを昨年の卒業兒童と比較すると卒業數四百二十五名

進學七十三名、家業從事者百三十四名、就職二百三名の各増加を見せてゐるが以上の數字に依る高等卒業の兒童の進學及び就職の状況は進學に於て男女計六百七十三名で昨年より廿五名減を來してゐるが就職者は九百四名で昨年より百七十四名の増加であり此の現象は上級の學校よりも直ちに實社會の第一線に立たふとする傾向を明らかに示すもので、學費を使ふよりはいくらかでも収入を見やうとする家庭經濟の行詰りを如

實に物語つてゐる

神谷農業倉庫

神谷村農會は本廿五日午後一時から村役場に役員會を開き鎌田農業倉庫を同村産業組合に貸與する件を協議する

公賣處分延期

平町は本年度前期の町税滞納者三百十九名、此金額千三百一十一圓七十八錢の公賣處分を來月一日執行する筈の處を二日午後十時より變更された

愈よ神宮大會

平商、警中共に勇躍出場

明治神宮大會へ本縣代表として出場する平商、警中兩庭球部はいよいよ來る廿九日午後二時より小石川區航空本部コートで舉行される全國豫選に出場の爲め明廿六日午後零時四十八分平發列車で警中根本、平商室原兩部長引卒の下に勇躍出發することとなつたが第一回戰の組合せは左の如く決定した

警(大谷) 靜岡(山本)
中(宮川) 商業(石川)
平(本田) 大阪(江口)
商(岩佐) 西區商(岡本)
平(小枕) 愛知(吉見)
商(篠原) 豊橋商(杉山)
警(篠原) 三重(寺井)
中(水野) 山田中(岡田)

蕃殖馬が貧血 澤渡村加藤清三所有馬牝栗毛蕃殖馬は今回傳染性貧血馬と決定屠殺處分されることになつた

平署の試み

運轉手其他と座談會を開く

廿九日は管内一齊取締

既報來る廿八、九の兩日の交通安全デーに平署は兩日午後六時半から同署會議室に管内自動車運轉手其他從業員の座談會を開き更に學校炭礦工場には事故防止の講演を依頼し自動車協會支部員と共に自動車を組織して宣傳ピラを撒布するが第二日目の廿九日には管内一齊に交通取締を行ふ一般の交通指

交通安全の全期

既報來る廿八、九の兩日の交通安全デーに平署は兩日午後六時半から同署會議室に管内自動車運轉手其他從業員の座談會を開き更に學校炭礦工場には事故防止の講演を依頼し自動車協會支部員と共に自動車を組織して宣傳ピラを撒布するが第二日目の廿九日には管内一齊に交通取締を行ふ一般の交通指

町村長會協議會

石城町村長支會は來る卅日午前十時から平町役場會議室に開會左記の協議案を附議する

- 一、稻作被害對策の件
- 一、縣町村農會發行自治の購讀普及の件

御迷惑な石炭殼

調査の結果に依り

被害があれば捨場に反對

磐城平發電所は石炭殼の灰捨物を神谷村大字上神谷字矢田ノ目地内山林に設ける爲め豫てより部落に交渉を開始し大體纏りかけた處灰捨場附近の灌漑用水路下流に當る同村大字上片寄は水田に礦毒の流れ込む懼れがあるとして區長吉田信雄氏外關係地主等が目下調査中であるが此の結果に依つては反對陳情を起す模様である

平職業紹介所報告

求人を求める方

- △精米助手 卅才迄 高卒 月給十五圓 住込
- △三助 五十才迄 月給五圓
- △農夫 四十才迄 月給十二圓 二人
- △同 同 日給六十錢
- △粕人夫 卅才迄 月給十圓
- △漁業雜役 卅才迄 月給十五圓
- △同 十六才 月給六圓
- △豆腐賣子 四十才迄 給料歩合
- △家具職工 四十才迄 尋

回職を求める方

- △事務員 廿四才 甲種商卒
- △外交員 廿六才 高卒
- △同 卅九才 高卒
- △同 卅一才 高卒
- △事務員 廿三才 中卒
- △配達人 廿五才 高卒
- △中等教員 廿八才 女大卒
- △牛乳配達 廿六才 高卒
- △給仕 十八才 高卒
- △小使 廿三 高卒
- △自動車助手 二十 尋卒
- △同 十七才 高一女修
- △硝子商店員 廿二才 高卒
- △店員 十九才 甲種商卒
- △雜役 廿六才 尋修

- 支會長送辭の件
- 一、珠算競技會の件
- 訓盲院補助金 平町警城訓盲院の本年度縣補助金は千三百三圓と決定した

- △鐵工 十六歲 高卒
- △鑄物工 廿五歲 高卒
- ▽ベルト職工 十七歲 高卒
- △仕上工 廿三歲 高卒
- △絹糸男工 十九才 廿一歲 各一名

木村科醫院

平町六丁目橋際
電話三〇九番

上田病院

平町 南町
電話二二九番

市原醫院

平町・田町
電話一一四番

木村病院

平町新川町十九
電話一六四番

藤沼醫院

平町・紺屋町
電話五〇七番

男女工見習

右至急募集す

希望者來談あれ

常磐毎日印刷會社

長橋町 電話六三〇

紅葉の下に

國防婦人總會

平國防婦人會は來月一日川前村牛小川地内で紅葉見を兼ねて總會を開くが會員は午前九時町役場に集合自動車に分乗出發する、會費卅錢で晝食持參のこと

軍人後援

御親授

郡下光榮者

本日廿五日閑院宮殿下の臨臨を仰ぎ福島市縣教育會館に於て帝國在郷軍人後援會福島縣支會の御親授式が午後から舉行されたが本郡に於ける光榮の授賞者は左の通り

- △有功會員吉田宗雄 下野十郎 菅原萬次郎
- △特殊會員諸橋久太郎 山崎清三 百澤易興 小松彌次郎 大平陸四郎 小松章 赤津庄兵衛 小
- 林藏治 宇佐美今治 菊地壽七 永山忠二 小野晋平 大和田郡司 小湊宗吉 本田辰吉 小室萬五郎 小田吉治 鈴木省三 近藤吉松 渡邊チカ
- 根本莊次郎 大谷要二郎 關内半平 吉村安次郎 鈴木亮 佐藤伊太郎 木澤常松 青沼鋒太郎 永山忠 關彰

暮るゝ街に泣く幼児

拾兒と思ひの外

盲目の母が杖と頼んでから来たんだ」とさきり母の名前も家も知らず僅かに「父ちゃんは

昨日黄昏せまる頃平町新川町地内縣道に通行の人達を見ては時折思ひ出した様に泣き出す五ツ位の

男の子があつたのを

親切な附近の人が平署に迷ひ子として保護を願ひ出たが「名前は秀ちゃん、年は五ツ、兄ちゃんは二人あるけど一人は俊兒ちゃんで學校へ行つてゐる、そして遠く

は別の父ちゃんが出来て秀ちゃんを可愛いがつて呉れた」とのみで流石親切な平署員も此の頑はない幼児の處置に途方に暮れ菓子等を與へて機嫌をとつて居た處本日午前十時半頃盲目の女

が平署を訪れ私の可愛い伴を探して下さいと願ひ出たが此の女が前記秀ちゃん之母で當時平町鎌田町旅人宿

四國屋に宿泊して街

に貰ひに出る山形縣生れの森ヨシ(ヨシ)と判つた事情を聞くと昨夕刻例の通り愛兒の秀坊に手をひかれて町に貰ひに出たの歸途大塚な秀坊とはぐれて終ひ杖とも頼む秀坊がなくなつては貰ひにも出られず飢え死の外ありませんと願ひ出たのだつたが行方不明の秀坊が平署にのんびり保護されてゐるのを見て參拜九拜また秀坊に

町村吏員が珠算の競技

第一回は平町に

石城町村長支會が町村吏員の珠算技能向上の爲め初めて主催する町村吏員珠算競技會は來月下旬平町に開催の豫定であるが同競技には吏員五十名が出場して高屋平稅務署長、矢野平商校長が審判となつて見取算、讀

上算、傳票計算、統計算等の競技を行ふ
學校行事打合 平町各小學校では廿五日午後二時より平第二校で打合會を開き來月分行事其の他を協議した

替へ玉投票

略式で三十圓

湯本町大字湯本字傾城一九土工松本春治(三)が去る九月廿五日の選舉日に亡父徳治郎に誤つて配布された入場券を利用して同日午後二時頃立會係員に松本徳次郎と

今日晩の部

- △後六、〇〇 子供の時間
- △後六、一〇 講話「我國最近の蠶糸問題に就て」井野碩哉
- △後六、二〇 講話「我國最近の蠶糸問題に就て」井野碩哉
- △後六、三〇 講話「我國最近の蠶糸問題に就て」井野碩哉
- △後六、四〇 講話「我國最近の蠶糸問題に就て」井野碩哉
- △後六、五〇 講話「我國最近の蠶糸問題に就て」井野碩哉
- △後六、六〇 講話「我國最近の蠶糸問題に就て」井野碩哉
- △後六、七〇 講話「我國最近の蠶糸問題に就て」井野碩哉
- △後六、八〇 講話「我國最近の蠶糸問題に就て」井野碩哉
- △後六、九〇 講話「我國最近の蠶糸問題に就て」井野碩哉
- △後六、〇〇 講話「我國最近の蠶糸問題に就て」井野碩哉

今日晩の部

- △後八、一五 ラヂオ聯曲
- △後八、三〇 講話「我國最近の蠶糸問題に就て」井野碩哉
- △後八、四〇 講話「我國最近の蠶糸問題に就て」井野碩哉
- △後八、五〇 講話「我國最近の蠶糸問題に就て」井野碩哉
- △後八、六〇 講話「我國最近の蠶糸問題に就て」井野碩哉
- △後八、七〇 講話「我國最近の蠶糸問題に就て」井野碩哉
- △後八、八〇 講話「我國最近の蠶糸問題に就て」井野碩哉
- △後八、九〇 講話「我國最近の蠶糸問題に就て」井野碩哉
- △後八、〇〇 講話「我國最近の蠶糸問題に就て」井野碩哉

明日の部

- △前六、三〇 基礎ドイツ語
- △前六、四〇 講話「我國最近の蠶糸問題に就て」井野碩哉
- △前六、五〇 講話「我國最近の蠶糸問題に就て」井野碩哉
- △前六、六〇 講話「我國最近の蠶糸問題に就て」井野碩哉
- △前六、七〇 講話「我國最近の蠶糸問題に就て」井野碩哉
- △前六、八〇 講話「我國最近の蠶糸問題に就て」井野碩哉
- △前六、九〇 講話「我國最近の蠶糸問題に就て」井野碩哉
- △前六、〇〇 講話「我國最近の蠶糸問題に就て」井野碩哉

濱相撲場中継

- △後六、〇〇 子供の時間
- △後六、一〇 講話「我國最近の蠶糸問題に就て」井野碩哉
- △後六、二〇 講話「我國最近の蠶糸問題に就て」井野碩哉
- △後六、三〇 講話「我國最近の蠶糸問題に就て」井野碩哉
- △後六、四〇 講話「我國最近の蠶糸問題に就て」井野碩哉
- △後六、五〇 講話「我國最近の蠶糸問題に就て」井野碩哉
- △後六、六〇 講話「我國最近の蠶糸問題に就て」井野碩哉
- △後六、七〇 講話「我國最近の蠶糸問題に就て」井野碩哉
- △後六、八〇 講話「我國最近の蠶糸問題に就て」井野碩哉
- △後六、九〇 講話「我國最近の蠶糸問題に就て」井野碩哉
- △後六、〇〇 講話「我國最近の蠶糸問題に就て」井野碩哉

冗談が昂じて喧嘩

暴れ込んで女中を殴る

商友會の東京支部

廿六日に總會

平町才穂小路富士食堂料理人久保田松二郎(三)は去月廿六日午後四時頃銀治町料理店水戸屋事安初吉方で飲酒の際同家の女中鈴木セイ(三)と始めは冗談を云ひ合つて居たが遂には夫れか昂じて本氣の喧嘩となり一度家に歸つた松二郎は腹に控へかねて再び同家へ暴れこみセイを毆打したので本日平署に家宅侵入並に暴行で告訴された

平商友會東京支部總會は明廿六日午後六時より東京市小石川區春日町大國で開催されるが參集會員約百名の豫定で盛會を豫想される尙本部より室橋會長、比佐副會長、理事一名出席の上支部長、役員改選及び支部規則改正等を行ふ筈

無断で保證せしめ

その揚句に大亂暴

永戸村大字永井字大堀農鈴木長作(三)は本年八月月中旬の知人大浦己之助(三)に無断で印鑑を偽造し同人を保證人にして借用證文を作

一冊の代金で御希望通りな五冊の雑誌が自由に讀める川崎文庫

電六三〇番 (申込次第規則書進呈)



明治太平記

（作）寺島雄史
（監）上原謙
（上）及上原謙

第五百五十九回

運命の星 (七)

「先生、わかりました」
「わかつたか、わかつたらもうよろしい。人目に立たぬうちに歸りたまへ」
「はい」

「寒空ぢや、その身振りではたまらぬだろ、おい……これを着てゆくがよい」
西郷は、着てゐる薩摩緋の綿入れを脱いだ。

「いや、その御配慮はいりません」
なアに、いつかの紅毛服よりは安いぢや、さア着てゆくがよい」

綿入れを、大志賀の方へ無造作に投げてやつた。それを、両手にうけて押戴き

「はッ、お心づくし、ありがたうござります。では遠慮なしに頂戴つかまつる」
大志賀は、尻きれ絆天のうへに綿入れを着て、細帯をしめた團體の大きい西郷が着るとだぶ／＼のだんぶくろだつた。

「ハッハ、ハ、よう似合ふぞ」
西郷は朗らかに笑つて大志賀を見送つた。

「先生」

歩きかけた大志賀は、ふとまた立止つて、先生といつた。
「おい」
西郷はまだあぐらをかい



「ほんとうにおかしいよ。殺された若者はどういふ人間かね」
「それがどうぼうです」
「なに、どうぼうかい……どうぼうなら、殺され損かもしれんよ」
「しかしどうぼう稼業の男だが、パークスを襲ふて殺されたのではありません。パークスが面白半分に通行人の中のその男を射殺したといふのです」
「うむ」
「もし、日本人が、イギリス首都においてイギリス人を射殺したらどうなりましたか」

日本の若者を射殺したが、政府では不問に附してをるのでですか」
「パークス君か？……ほう初耳だよ。眞實か」
「屯所の報告によつて、司法卿の耳にも入つてをるはずですよ。それをあなたが知らぬといふのはおかしい」

「もちろん問題だな」
「拙者が、イギリス人を殺したら？」
「同じことさ」
「いや、國際的問題としてあなたを殺した方がよかましいでせう」
「あるひは、さうかもしれん」
「拙者ごとき素浪人が、同じイギリスの素浪人を殺したとしたら……？」
「とにかく、人を殺すことは重刑だよ。旗本大志賀市の丞だとしてみだりに庶民を

殺すわけにはいかん」
「何かの、はづみに拙者がイギリス人を殺したとしたら國と國との問題にはならんでせうな」
「パークス君をか」
「いやそのイギリスの素浪人をです」
「大したことは、あるまい……」
「わかりました。ありがたう」
大志賀は、ふたたび踵を返した。

花環 神佛葬具
盛花 久壽玉 御弔燈 寶明燈
靈柩自動車

造花

平新川本橋
屋本
三六一電

外科 X 光線科
性病科
外科

平町田町
安齊外科醫院
電話四七五番

入院隨意

吉田眼科病院

平新屋町電話六八番
醫學士 吉田久雄

石炭一〇〇パーセント
サーヴキス

時節柄 値下げ!
ダンゼン
特等塊 正味五〇斤入一俵 金貳拾八錢
一等塊 同 金參拾五錢
品質が優良 デナケレバ 値段バカリ安クトモ結局
目方が正確 此の点は本店を絶対に御信用願ひます
市内は一俵より配達致します
電話三七番
阿部石炭商店

内外科 一般
金成醫院
平鎌田町(電三五八)

喜多流 謠曲と仕舞の
お稽古をお奨め致します
平町田町六九
喜多流 謠曲 舞白土會
電話一二七番

一、齒科 一般 保存科補綴科 繼續架
工科 齒列矯正科 小兒齒科 齒槽膿漏科
一、口腔外科 一、レントゲン科

中野齒科醫院

平町田町(松月堂向ヒ)
電話五〇九番

院長 日本齒科 醫學士 中野 惠次
日本齒科 醫學士 西川 誠